

2018年(平成30年)2月8日(木)

新 毎 日 新 聞

2月8日(木)
2018年(平成30年)

「魚離れ」食育でストップ

気仙沼の業者ら 小学校で授業

気仙沼市の水産会社などがつくる「気仙沼の魚を学校給食に普及させる会(白井壮太郎代表)が、子どもたちを対象にした食育授業に取り組んでいる。深刻化する「魚離れ」を食い止め、地元水産業の復興を図る狙いだ。

同会は魚食文化への関心を高めてもらうようと、2012年から食育活動を始めた。気仙沼市だけでなく県内外



小野寺さん(中央)にもりを持たせてもらう児童—気仙沼市で

の小学校などで漁師や水産加工業者を講師に招き、授業を実施している。

同会は1月30日、市立唐桑小5年生を対象にした授業を実施。講師の突きん棒漁師、小野寺庄一さん(42)＝同市＝が、長さ約5斤の

もりを使ってメカシキを仕留める豪快な漁の方法を説明した。児童たちは、小野寺さんが持参したもりを実際に手にした後、「外すこともありますか」「コツは何ですか」などと質問。小野寺さんは「腰を落として体全体で投げる。命がけで

捕ったメカシキは、その後もたくさん人の手が加わって食卓まで届く。残さず、おいしく食べてください」と語りかけた。

授業の後、小松輝さん(11)は「漁師さんの仕事はすごい。これまでは家で魚をあまり食べていなかった。でも体にいいと分かったので、これからはもっと食べたい」と話した。

白井代表は「誇れる水産業があることを地元の子どもたちにもっと知ってほしい。生産者の顔が見える授業をすることで、食に関わる仕事について理解してもらえれば」と話している。【新井敦】